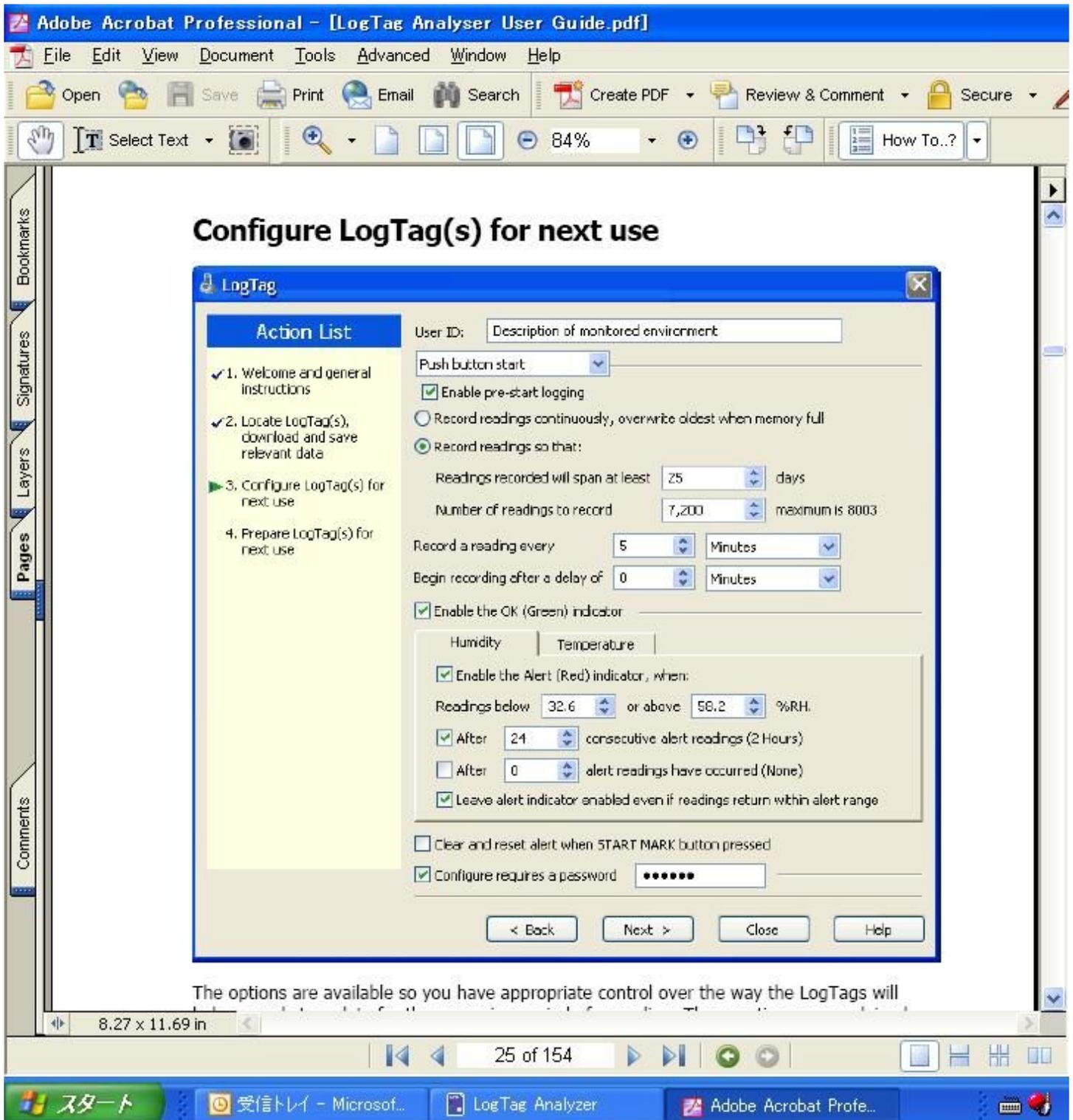


## LogTag (ログ・タグ) の初期設定と使用手順

### LogTagの初期設定手順：

- 1) LogTagソフトウェア(LogTag Analyzer)を弊社LogTag Internet サイト [www.logtagrecorders.com](http://www.logtagrecorders.com) からインストールする。
- 2) “LogTag Interface”をPCに接続する(USB Interface コネクターへ接続する)。
- 3) LogTag Analyzerの初期画面(参考:LogTag初期)のLogTagをクリックしてConfigureを選びLogTag温度レコーダーの測定環境を設定する(参考:LogTag-Configure)。



- 4) 以下“TECHNICONの試薬輸送の一例の手順”マニュアルによりLogTagをスタートさせる。

## 温度 LogTag (ログ・タグ) の使用手順 :

この手順は TECHNICON の試薬輸送の一例です。

### 1. ログタグを産業パートナーのサイトで始動する

1.1 パートナーのサイトにて: ログタグは TECHNICON にて、使用のための環境設定済みです。ログタグ上の START MARK ボタンを OK および ALERT の両電気が交互に点滅するまで押し続けるだけで、すぐに始動します。試薬に接触する形で(もしくは試薬にできるだけ近い形で)装置を出荷用の箱に詰める準備ができるまでは、装置の始動はしないで下さい。ログタグは、装置の損傷を防ぐために、バブルラップ(発泡ビニールシート)付きの封筒に入れたままにしておいて下さい。

1.2 ログタグは始動後、11 分毎に 2 ヶ月間温度を記録します。



### 2. ログタグをトライアル・サイトで受領する

2.1 受取先のトライアル・サイトにて:

2.2 ログタグ上の **赤い電気 (ALERT 電気とも言う)** は、環境設定された警戒条件に達した、および／もしくは超えたことを表示するために、一定間隔で光ります。荷物の包みを開けて、このログタグが赤く光っていたら、2°C 以下もしくは 8°C 以上の温度に達したことを意味します。その場合は、装置内に記憶されたデータポイントを TECHNICON でダウンロードしチェックするまでは、この試薬は使わないで下さい。

そうでなければ、**OK の緑の電気** が 4 秒間隔で光ります。これは輸送中に警戒温度に達しなかったことを意味し、この試検査のためにすぐに使うことができます。



= 試薬の使用 OK

2.3 宅配便の包みを開けたときに「検査」マークを記録してください。検査マークを記録するには、ログタグ上の START MARK ボタンを OK および ALERT の両電気が同時に点滅するまで押し続けるだけです。

2.4 ログタグは、TECHNICON に送り返す準備がととのう時点まで、常時(たとえ冷蔵庫の中でも)コールド試薬と一緒にしておいてください。

### 3. ログタグを TECHNICON へ返送する

3.1 装置内に記憶されたログタグのデータポイントは、TECHNICON のコンピュータにダウンロードして分析する必要があります。

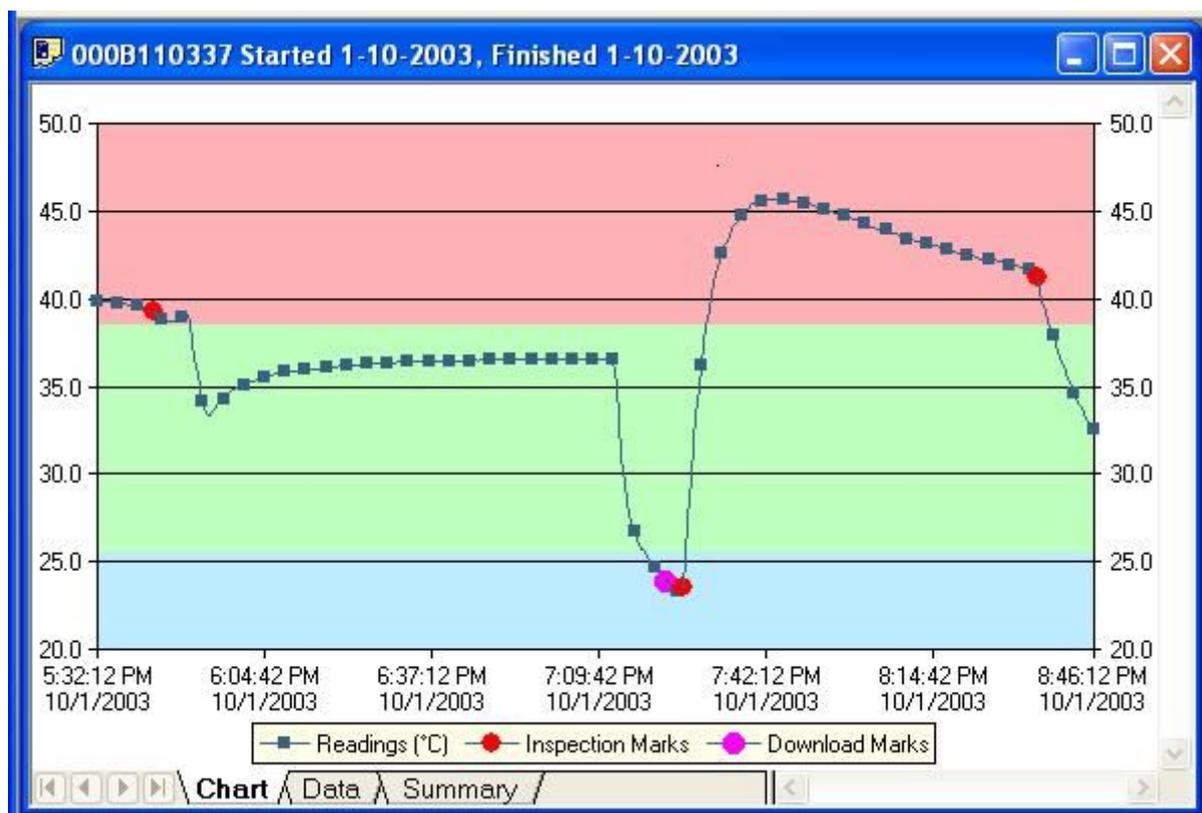
装置はバブルラップで保護された封筒に入れ、私どもまで送り返してください。あて先:

Tanaka  
TECHNICON INTERNATIONAL for Innovative New  
Diagnostics  
3-chome, Bunkyo-ky, Tokyo 113-0022  
JAPAN

3.2 封筒にログタグを入れる前に、「検査」マークを記録して下さい。(2.3 項を参照)

3.3 TECHNICON ではデータをダウンロードしたうえで、データポイントおよび、もしあれば、輸送中小包に発生した警戒マークをそちらにお知らせします。

ログタグから引き出すことのできる曲線グラフの例:



### 4. 交換暦

Version#	Version date	Description